



(史女代知美代永)

妻

より

未婚のクラスメイトへ

永代美知代

楽しいのはほんの束の間

S子さん。
結婚したら屹度手紙をあげませう——
何れも彼も打ち明けた手紙を書きませう——
斯うお約束して置いて、私も矢張り約束を無視した
世間の若奥様になりきつて、本當に濟まなかつたわ
勸忍して頂戴。
でもね、それには種々云ふに云はれない、深い事情
があつたのよ、云ふに云はれない深い事情が——S子
さん、而も私は、今となつては、その云ふに云はれな
い事情と云ふのを話して、すつくりあなたに聞いて頂
き度いの、泣いて頂き度いの。
え、泣いて下さい、結婚は嬉れしいものとはかり思

ニコニコ 第六十一號

妻より未婚のクラスメイトへ

ひ込んでいらつしやる未婚のあなたは、突然なこの私
の申出に、屹度不審の首をおひねりなさるでせう、無
理もないわ、併しね、結婚は未婚者の夢想してゐる程
楽しいものではありません。
否、楽しいのはほんの僅かな、束の間です、一生涯
泣いて暮さなければならぬ結婚生活にも、最初の半月
一月が程は、所謂ホネムーンで以て、多少面白をかし
いと思ふことがないでもありません、その頃の良人は
たゞく新婦の機嫌を迎へることばかり考へて居て、
何れと嬉れしがらせるやうな甘い言葉を並べ立てます
芝居が好きだと云へば、毎晩でもつれて行きますし
朝から晩まで、毎日の御飯はまるでお正月のやうな
御馳走づくめです。役所の歸りに、わざ／＼電車で鹽
瀬や藤村へ寄つて、新婦の好きさうなあまいものを、

ウンと一いれて、お土産に持つて来ます。

S子さん、私も初めのうち、結婚位楽しい、うれしものはないと思つた程よ、でもねずぐ心配が初まりました。

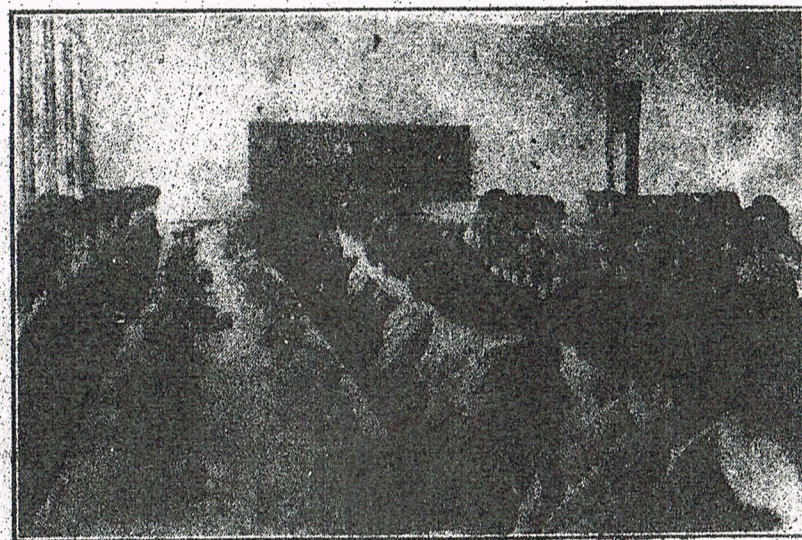
良人の月収幾ら幾らと、取り高が解つて、見れば、さうくのほうづな贅澤もしてられないやあらませんか。

「一寸あなた、こんなに御馳走ばかり頂いて、可いのでせうか」

斯う訊く頃には、良人も内亂費を怖れて居る時分です。そして其の頃からポツ／＼結婚生活にあきかゝつて、獨身時代の自由な、うづらな暮らしをなつかしんで居よう云ふので、

「さうさな、家計簿記でも買つて来て、ちんまり暮す工夫でもして見よう」

などいそんな言を云つて、表面引きしまつて見せない



(は集のトメスラク)

今度自分ばかりの贅澤を初めます。カッフェーだの、バーだのそんな處を飲み廻るうちはまだしもですけれど、こつそ、赤坂あたりの待合遊びから始まつて、新橋吉原と、だん／＼放蕩の修業が積んで来る。

何時の間にやら家の者の知らない借金が嵩んでしまつて、ヤレ利子だ、書き替へたと、高利貸に拂ふたんに、持つて来た禮服から九帯から、縞の重ねから、だんだん七つ屋のお倉の中へ運ばれてしまひます。そして筆筒は空っぽになりきつても、良人は相變らず酔拂つて、小言を云へば横面の一つもはられるのが落ちなのよ。

一生一度も離別を思はぬ女は天下にない

いつその事別れてしまひ度い、誰だつて結婚して一生一度もさう考へなかつた女は、天下にありません。出来たのが世の中です。男に對する未練がなくとも夫婦の間に、かすがひの子供が出来て居ようと云ふ始末です。子供の行く末を考へれば、親無しにするのも可哀相だし、いつまで若くて居れる自分でもありませんしねえ、そんなこんなで、大に發奮して、内職に裁縫をするとか、女髪結を初めて見るとか、大抵は腕相當の職業をみつめて、金を取る算段をするものですわ

でもお互のクラスメイトは、幸に女結髪にもなりませんでした。K子さんは今、毎日お辨當を御持参で××幼稚園の先生です、M子さんはタイピスト、G子さんはお通ひの家庭教師、D子さんが小説家——S子さん、よそめには皆趣味の人とも新しい女とも見えるでせう。

その趣味の人、新しい女が家庭にあつては、一向さうでもなく、朝から晩まで臺所から座敷から手一つ

で働いて、子供に泣かれ、良人に怒鳴られ、うつかりすると月末には八百屋や魚屋に頭を下げて、借金の云ひわけもしなければなりません。

結婚後の生活を悉くお報らせするにも何にも、前申上げたやうなでた／＼をやつてゐて、明らかにどうして本當の内情を申上げ得ませうか、昔女学校の寮に居た時分、結婚した皆様からのおたよりが、どれもこれも上面をかいなでたやうなお手紙ばかりなのを罵倒して、私こそ結婚したら何も彼も打ち明けた手紙をよこしますと誓つたものでしたが、さて自分がその身になつて見ると、さう云ふ譯にも行かないのですわ。初めのうち私一人が貧乏くじを引いたのかしらと思つて、そつと探偵旁々既婚の友達を訪問して見ますとね、誰も彼も云ひ合したやうな悲惨な身分です。身も魂も捧げ切つたやうな事を云つて、親御のお手から無理矢理さらつて行くやうにして結婚なすつたD子さんの御良人でさへ、今ではお子さんの三人もあるのに毎晩のやうなカッフェー歩きだと聞いては、人意を強う

するところか、私は男と云ふものに呆れずには居られ
ません。こびはありません。

百萬長者の馬鹿息子 子の妻となれ

それにしてもS子さん、あなたは私達クラスメートの中で、たった一人の未婚婦人です、どうぞ結婚と云ふものを楽しいもの、嬉れしいもの、とばかり、あくがれ、空想しないで下さい、私はせめてあなた一人でも墓場に等しい悲惨な結婚生活に入らせ度くないと思ひます。

併し、一生孤獨を守つて、女の一人暮らしをなさいとおすゝめする譯でもありません、結婚して、處女時代のやうな幸福な生活が保たれさへすれば、それに上越す幸福とよる



(式園入園年少るけ於に園公谷比日)

私達の或者は花の如き美貌を以て、良人の愛を永久につなぎとめようと思つた。して又或者は門地と富とを以て、一途に良人の心を其身の上に引きつけようとした。それから或者はまた結婚と云ふ言葉をさけて、金と労働とを雙方から持ち寄つた共同生活なるものによつて、良人の負擔を輕からしめようとつとめました。ですけれ共、それらは皆同じやうな結果をもたらして、家庭にはやはり良人の暴虐が繰り返へされ妻は怒鳴られながら働くの外はありませんでした。

花の如き美貌も、不老の靈藥の發見されない限り、良人の心を永久に引とめる手段とはなりません、富も

門地も馴れ、ば有難いよりは却て、放蕩するに便利なものと思はれませう、妻に一家を支へて行くだけの手腕があれば、家を外に遊び歩くも、さして内顧の愁はありません——と云つた譯で、S子さん、私達妻と云ふものゝ浮ぶ瀬は、遂に／＼見出されさうありません。

ですがね、此處に一つ例外があります。即ち貴婦人と云ふ階級に居る女達は、良人から怒鳴られもせず、横面をはられることもなく、終日美しい著物を著て、あまたの侍女共にかしづかれて、讀書をしようと、琴を弾かうと、すべて各自の好みのまゝの日を送ることが出来るのです。私達がほんの僅か束の間の樂しさとして思ひ出に堪へない、ホネムーン時代に等しい御馳走と遊山つゞきの一生を送ることも出来るのです。

S子さん、私は貴婦人であつたらよかつたと、希つたこともありました。あなたも或はどうせ結婚するのなら、此貴婦人たらんとお思ひなされるでせう。併しなから又立入つて考へて見ると、良人から怒鳴られ、横面

をはられてそしないけれど、貴婦人にも貴婦人相當の涙がありさうに思はれます。

世に伯爵と云はれ、公爵と云はれる方々は、絶對にカップルだの遊里だのに出入しないか如何か、殘念ながら新聞雑誌はその人々の亂倫な所行をあばき傳へるではありませんか。

此處に於てか、女はどうしたつて結婚すれば駄目の皮になつてしまひます。

只一つの策として、どうせ結婚する程なら、貴婦人を凌駕する程の、百萬長者の馬鹿息子の妻となり、良人をお尻の下に置いてウンともスンとも云はず、恣に振舞ふ。しかしS子さん、お互にそんな馬鹿息子を良人と呼んで満足出来るか如何か、先づ以て考へものだと思ひます。

兎もあれ、あなたは未婚の婦人、まだ海のものとも山のものとも、人生の相場がきまつてゐませんから、いまの内、とつくとお考への上、ヘマをしないで頂戴私達はどうも失敗者、貧乏くじの山の神連で仕方がありません、以上。(をばり)